

**臨床福祉専門学校**  
**言語聴覚療法学科 平成28年度 第二回教育課程編成委員会 議事録**

日時：平成29年2月20日（月）13：00～14：30

場所：臨床福祉専門学校 3F会議室

出席委員及び所属

田村 満子（NPO法人 こども発達療育研究所理事長）

園田 尚美（株式会社 言語生活サポートセンター 代表取締役）

内藤 明（言語聴覚療法学科 学科長）

黒川 容輔（代理出席）

記録：樋口 豊朗（事務局 教務課主任）

### 1. 学科長挨拶

本日の会議の趣旨としては、第一回目の会議で話題として出た、1年次の終了時における施設見学の運用方法・課題等について具体案を煮詰める事が目的。

### 2. 意見交換（小児領域：田村委員）

田村：受け入れ態勢は整っている。入学後1年経ってからの施設見学という事で入学後早期とは異なる見学プランが必要か？

内藤：小児領域の施設からして、専門職であるSTの仕事として望まれる、又は期待される事を学生に示してもらいたい。

田村：STの仕事としての理解という事であれば、それを明確化する為に、現場のSTと話す機会を設ける、それとは別に現場（患者）は一通り見てもらいたい。

内藤：学生にも実力のバラつきがある。とはいえ約1年経過して、それなりに知識があるので、あえて目標は絞らず、小児領域においてのSTの仕事を知るというスタンスでも良い。

田村：入学後早期の施設見学の際には、学生に対して施設側がプランニングしたが本会議の焦点である2回目の見学の際には、施設側がメニューを提示し学生が自主的に見学するプランを提案したい、学生自身に施設の中で自由に見学し、最後に特定の時間で現場STと話をする時間を設ける形式

内藤：非常に良い中身で、学生自身が医療現場でプランを組み立てる事は相応の成果になる。

田村：受け入れ人数については、3施設を提供できるので、調整次第で可能

### 3. 意見交換（成人領域：園田委員）

園田：入学後早期の見学の際には、実際のS Tの仕事内容を観るという事を目的としていたが、学生自身にも知識がなく、患者を前にどうしてよいか分からないという学生がいた。しかし、約1年経ち知識が増え、以前とは異なる見学方法が必要であり、30分程度個人訓練に入ってもらおう。それを観る事で仕事の理解はもちろん患者個人の特徴を知る事ができる。

内藤：1回目の会議でも話題として挙げた、患者個人の特徴や家族の思いも受け止める必要性を学生も感じる事ができる。是非実現したい。

園田：田村委員の小児の施設とは異なり、学生にメニューを提示し、自由に施設を見学させるという方法は提案できない。あくまで施設見学をする際に目的を持ってやってもらいたい。

内藤：もしよろしければ現場で観てもらいたい点・目的を含めて事前に1コマ講義頂いても良い。

（まとめ）

- ・1年次後期終了後に行う施設見学（案）について、小児・成人双方の施設より運営方法について具体案が出た。本校としては平成29年度より実現が理想であり、引き続き学科内で検討する。
- ・受け入れ人数としては、小児・成人双方で形態が異なる、第一回の会議の際に話があった学生に希望の施設を聴収するという形式を採るのか検討。
- ・平成29年度、第一回教育課程編成委員会場で、具体案を学校から両委員に提供する。